

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	妙琴浄水場更新事業	会計	水道事業	事業No.	292	施策順No.	45-006
		事業種別	政策・その他	予算科目	4-1-1--1		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	水道課		
施策	45 居住基盤の向上		事業期間	開始	21	終了	28

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	妙琴浄水場の各施設(浄水池・薬品沈殿池・ろ過池・管理棟・ブロック形成池・着水井・薬品混和槽・薬品棟)						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)						
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		妙琴浄水場の更新対象施設箇所数						
		薬品を低減した高度浄水システムにより水の供給を受ける人口						
意図	浄水薬品を低減した高品質の水道水を地震時においても安定供給を可能とする							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	耐震化された施設箇所/各施設箇所×100(%)						A	
	高品質の水の供給をうける給水人口							
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	成果指標の数値に反映はされないが、ろ過実験により、更新基本計画が定まった。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	妙琴浄水場の既存各施設を稼働しながら浄水池・薬品沈殿池については既存施設の耐震化を、ブロック形成池は機能改築を、着水井・薬品混和槽・薬品棟については新設し、また、隣接地を用地として取得し、そこへ管理棟機能をもった膜ろ過池を建設する。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	ろ過方式事業変更認可、膜型式考察のため年間を通じたろ過実験の実施	事業変更認可 ろ過膜詳細検討	1式
23年度実施計画	詳細設計、用地取得	詳細設計 用地取得	1式

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
		県支出金			20,000	
		起債	0	0	0	
		その他	10,000	0	67,000	
		一般財源				
	計(A)		10,000	0	87,000	
	正規職員所要時間					
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			0		
	トータルコスト A+B			0		

4 事業に対する市民や議会の意見

議会等より、飯田市民の6割余に供給している浄水場であることから、市民生活の安心・安定のためにも重要施設であり、緊急に整備更新の実施を望まれている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、市内滞在者、事業者が生活・事業に必要な基盤が整う *上位施策を災害対策の推進とすることもありうる	施策の成果指標又はムトス指標	居住基盤の満足度
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	当事業は、施設整備に影響を受ける対象人口が全市民の70%に及ぶが、耐震対策、膜処理による高度浄水計画による安心安全な水の供給を可能とする更新基本計画が出来た。		ムトス指標 上水道普及率
	後期に向けた課題	実施設計において維持管理のしやすいシステムの追求		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	補助事業導入が、営業費用支出の軽減につながりの市民(お客様)への負担軽減につながった。		
	後期に向けた課題	膜種類、規格について慎重な選択、市場性があり競争原理が働きやすい汎用性の高いシステムの選定。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	原水の通常時、高濁度時におけるろ過実験の検証結果に基づきシステムの最適化によりイニシャルコストを抑制した膜処理システムの検討結果を得た。		
	後期に向けた課題	薬品費削減、汚泥軽減、膜への負荷がすくない維持管理システムの確立により軽減を図りたい。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	必要事業であるが、多額の予算を要し財源は料金収入によるため国庫補助導入等による水道料金負担軽減に努めた。		
	後期に向けた課題	事業費の最大限の圧縮による水道料金負担の軽減。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	更新計画の基本方向性が定まった。		
	後期に向けた課題	更新後施設の運転の中で、コストを安く、いかに良質で安定した浄水をつくるかは、日常の維持管理の中での経験の積み上げをフィードバックした運転手順書、基準の策定がポイントとなる。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	------------------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------